

各区保健福祉センター  
地域保健福祉課

区	電話番号	ファクス
東	645-1088	631-2295
博多	419-1100	441-0057
中央	718-1111	771-4955
南	559-5133	512-8811
城南	833-4113	822-2133
早良	833-4363	846-8428
西	895-7080	881-5874

公民館などで開設される子育て交流サロンの詳しい情報はお住まいの区の保健福祉センターにお問い合わせください。



子育てサロン「さくらんぼ」で音楽に合わせて、笑顔で身体を動かす子どもたち

地域の子育て応援団！  
子育て交流サロン

地域の人たちが子育て家庭を応援する取り組みの一つが、公民館などを会場に開設されている「子育て交流サロン」が開設されています。

平成20年9月現在、市内143か所で子育て交流サロンが開設されています。各公民館ではまた、子育て中のお母さんたちが中心となったグループ「子育てサークル」が開設されています。

平成20年9月現在、市内143か所で子育て交流サロンが開設されています。各公民館ではまた、子育て中のお母さんたちが中心となったグループ「子育てサークル」が開設されています。交流サロンは、子育て中のお母さんたちが中心となり、子育てに関する悩みを相談し合うなど、自主的な活動が盛んに行われています。また、子育てサークルの場として、子育てに関する悩みを相談し合うなど、自主的な活動が盛んに行われています。

子どもたちの笑顔をみんなを守る  
地域で行われている子育て支援の取り組みのうち、「子育て交流サロン」「すこやか赤ちゃん訪問事業」「ファミリー・サポート・センター」の3つを紹介いたします。



田島公民館と子育て交流サロンのスタッフの協力体制が自慢です

田島公民館(城南区)で毎週水曜日午前10時から2時間開設されている「さくらんぼ」は、平成15年にスタートした子育て交流サロンです。

その特徴は、毎月1度は親子で楽しめるイベントを開催しているところ。イベントをきっかけに参加者同士の交流も深まります。「保育士や看護師などいろいろな実務能力を持ったお母さんがいてサロンの運営に協力してもらっています」と言っているのは、代表の井上友子さん(35)です。

市は地域の身近な相談相手である民生・児童委員が赤ちゃんが生まれた家庭を訪問する「すこやか赤ちゃん訪問事業」を今年度から実施しています。

育児家庭を訪問します  
すこやか赤ちゃん訪問事業

【問合せ先】  
こども未来課(☎711-4114) ④7333・5534  
メール k-mirai.c@city.fukuoka.lg.jp

市は地域の身近な相談相手である民生・児童委員が赤ちゃんが生まれた家庭を訪問する「すこやか赤ちゃん訪問事業」を今年度から実施しています。地域ぐるみで行う子育て支援の一環として、地域と子育て家庭のつながりをつくること、子育て支援に関する情報を提供し、育児不安の軽減などを図ることを

サロンサポーターの宮野みはるさん(58)は、「クリスマスや七夕などのイベントだけでなく、歯科衛生士による虫歯予防講座、防災協会のスタッフによる赤ちゃん救命講習など公民館の協力を得ながら実施しています」と地域全体での取り組みを強調しています。

子育てサロンを卒業したお母さんたちが、次のサポーターになっていく仕組みが自然と出来上がっているのも、息の長い活動の成果なのでしょう。

電話での相談を受け付けます

市はこども総合相談センター「えがお館」で子どもや保護者を対象に、子どもに関するさまざまな問題に對して保健、福祉、教育分野から総合的・専門的な相談・支援を行っています。電話相談では臨床心理士や保健師、助産師、保育士

市こども総合相談センター(児童相談所)  
☎833-3000(24時間対応)  
各区家庭児童相談室(保健福祉センター内)

区	電話番号	ファクス
東	645-1072	631-5025
博多	419-1084	441-1455
中央	718-1104	771-4955
南	559-5124	512-8811
城南	833-4104	822-0911
早良	833-4357	831-5723
西	895-7069	881-5874



坂本さん(左)と西之原さん(右)親子

生後3か月ごろの赤ちゃんがいる家庭を対象に、各区保健福祉センターから事前に案内文書を送付してから民生・児童委員が訪問します。

西之原陽子さん(24)と赤ちゃん親子を訪ねたのは、吉塚校区(博多区)の民生・児童委員の坂本陽子さん(64)です。

坂本さんは「子育ての経験を生かせるやりがいのある仕事だと思っています。子育ての悩みを一人で抱え込まないように気軽に相談してほしい」と言います。

「引越してきて近所に友達がいなかった」という西之原さんは坂本さんに、近くの公民館で育児中のお母さんたちが自由に集まる「吉塚育児スペース」を紹介してもらいました。ときどき足を運ぶようになり、今では育児の話題で盛り上がったたり、相談ができる気の許せる「ママ友ができました」と笑顔が浮かべます。

【問合せ先】  
こども家庭課(☎711-42338) ④7333・5534  
メール k-katei.c@city.fukuoka.lg.jp

市長の日記

子どもは無限の可能性を持って生まれてきます。そしてみんなが夢の実現に向かって一生懸命努力する。私たち大人は自分の人生と重ねて見守り、できる限りの援助を惜しまない。「社会の使命」とは子どもをどう育てるかに尽きるのではないのでしょうか。近代日本は教育の向上を国の方針に掲げて発展してきました。欧米の進んだ部分を目標に頑張ってきたわけですが、最近では教育現場

の荒廃を指摘する声が続々です。私も教師も努力しているのにさまざまな事件が起きます。しかし、嘆くだけでは始まらない。いろんな学校で根付いている「オヤジの会」などは素晴らしいチャレンジです。先日、ある中学の会に参加したところ、「教育を母親任せにしない」と言い切る父親ばかりでした。頼れるオヤジの復活が教育再生の一つの鍵を握ると感じました。

福岡市長 吉田 宏

聞きたかけん

西区の西部リサイクルプラザで、生ごみをたい肥化する段ボールコンポストの普及啓発を中心に活動している「西部環境サポーター倶楽部」の皆さんと「環境」をテーマに懇談しました。「地球温暖化防止のためには燃えるごみや生ごみを減らすことが大切」「段ボールコンポストの定着化には、家庭生ごみのたい肥化にとどまらず、園芸や食育へと発展させる必要がある」「県内のある町のように福岡市でも「みゼロ宣言」をしてはどうか」など活発な意見が出されました。懇談を通じて市長は「課題は、皆さんの活動を政策としてつなげていける



段ボールコンポストの説明を受ける市長



目指せJ1復帰!!

10月後半～11月前半のアビスパ福岡のホームゲームは、10月19日(日)午後1時 対 横浜FC。①レブルファイブスタジアム ※観戦には公共交通機関(地下鉄・臨時バス・アビスパ福岡応援タクシー)のご利用を。